

横尾議員 それでは「島民の要望を受けて見解と対策は」についてですが、1月13日に議会は出羽島に視察に行き、島民の方々と要望事項について意見交換をしてきました。後日に議員間で協議した内容を回答したところですが、行政へも要望されていますので、同様に回答をされることと思いますが、広く全町民に周知すべき事例ではないかと思ひ至り、質問することにしました。別紙添付の要望事項を読み上げ、1から8の項目について、見解と対策をお聞きします。町議会議員の皆様と行政への要望事項。僅か15分という短い船旅で、旅情に浸る間もなく、一步、島に足を踏み入れると、車のない社会、喧騒のない社会を実感していただけたと思います。獣害のない、また、「マムシ」がいないとされる島、四季を通じ安心して島内を散策していただくことができます。また、冬場でも「ハイビスカス」の花が咲き乱れ、大きく伸びた「カナリ - 椰子」は、南国の情緒さえ感じ取ることができます。島の頂上から、現在は十分な展望はできませんが、視界の良い日には、東に和歌山の山並み、南南西方向に室戸岬が眺望できます。木々の間から水平線に目を向けると、丸い地球が再発見できます。牟岐町における観光の拠点として、目を向けていただく価値はあるように思います。島民の一人として、議会議員の皆様方に下記の事項について見聞のうえ、是非ともご検討いただきたく要望する次第です。1、平成29年漁村集落として、全国2例目の伝統的建造物群保存地区に選定されました。今後はさらに、選定物件の保存に積極的に取り組んでいただきたい。(1) 廃家、老朽家屋に関しては、所有者に対し現状を照会し、近隣居住者、建物への迷惑防止策を講じてもらうよう、何らかの形で勧告してもらう。(2) 町有物件の管理(旧寺屋敷・番屋(島本)・青木)と修復。2番目として、遊歩道の整備と町道の整備。(1) 東廻り遊歩道の一部が崩落により、通行不能になっており、一部ルートの変更の検討。3、観光資源の有効活用、国指定の天然記念物「シラタマモ」等の案内板の整備(出羽島の発着場)4、灯台周辺の展望の妨げになる雑木の伐採(地権者の同意が必要なことは承知済み)5、避難所(平野宅跡)への道の修復、旧出羽小学校階段手摺の一部取り付け。6、町道周辺の雑木、雑草の管理、同様に、公衆便所周辺の雑草の管理。7については、1の(2)と同じなので省きます。8、獣害のない島で休耕畑の利活用(島外者に対し情報発信)令和5年1月、出羽島、田中幸壽、以上となります。なお、文章中に「観光の拠点として価値はある」とあるように、島の方々の「今後は観光地として生き抜く覚悟である」との思いが伝わる文言が示されています。町としても意を汲み取り整備を早急にすべきではないかと考えます。町の見解はいかがでしょうか。昨年の6月議会の「出羽島の将来像について」「③出羽島歴史的な古民家活用事業」の報告を受けての

見解はの質問では、町長の答弁ですが、「③平成30年度に策定されたものであり、出羽島の未来を考えるうえで、歴史的建造物の活用だけを目的としたものでなく、島民の方々と課題を共有することや、計画の策定をきっかけとした人材育成を目的としたものであり、町としては、重伝建保存事業の活用を主軸とした歴史的建造物の改修を行いながら、活用方法、産業活性化について、島民と協議を重ねたい」と町長は答弁されましたが、それ以降に協議をしたとも聞こえてきません。また、「⑤、②③の報告等に関して関係者による協議会等を設置し、島の将来像に向けて構想し、実践すべきでは」との質問で、当時の教育次長は「⑤教育委員会だけでなく企画政策課、産業課との連携は必須であり、住民の意見や要望を反映できる組織づくりを進めたい」との答弁でありました。この組織づくりもどうなっているのでしょうか。協議会や組織づくりの予定が決まっているのであればお示しください。以上、お願いします。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 横尾議員からご質問の島民の要望を受けて見解と対策についてお答えします。順序は前後すると思いますが、よろしくお願ひ申し上げます。1(1)についてです。重伝建地区選定直後は、建物が建ち並ぶ町並みの景観を見てもらいたいという想いから、建物の所有者の方々にはできるだけ建物を潰さずに保存してほしいというお願ひをしてきました。しかしながら、コロナ禍で、島外に住む所有者の方々の出羽島への関わりが減ってしまい、世の中の状況も大きく変わってしまいました。老朽化により、屋根が崩れ瓦も落ちてきている危険な建物も出てきていることから、島民の方々や来島者の安全を確保するためにも、建物の所有者の方々と連絡を取り、まずは重伝建制度を利用した保存に向けての話し合いを前提としながら、状況によっては建設課とも相談しながら解体・除却という対応策も検討していきたいと思ひます。次に、1(2)と7が同じ質問だと思ひます。島の交流施設として重伝建地区選定前に修繕・改修を行った町有物件「波止の家」がありますが、この施設は当初から日常的な施設の運営・管理を島民の方々にお願いしてきています。その他の町有物件は、改修後の活用方法が未だ見出せておらず、また、島の人口も50人を切っており、島民の方々だけに運営・管理をお願いすることも難しく、庁舎移転やごみ焼却場の建替えなど大型公共事業も控え財政状

況も厳しいため、改修の見通しが立てられない状況となっています。今後、出羽島での観光事業に関心のある民間事業者等外部の方と連携を図りながら、町有物件の運営・修復に向けての道筋を模索していきたいと考えています。3についてです。案内板については、昨年の6月議会でも回答させていただきましたが、町並みの整備が進んだ後、特に「番屋」「寺屋敷」など町有物件の整備が完了した後の製作を考えています。その案内板に、シラタマモをはじめ島内の観光地についての詳細が分かるQRコードの添付も検討します。⑤です。6月議会で答えた分です。島の人口が50人を切っており、建物の保存だけではなく、島のコミュニティの維持さえ難しい状況となっています。重伝建地区選定を機に、島の将来について協議をしていくために島民の方々に組織された「出羽島を考える会」を中心として、産業課や企画政策課等各関係機関と連携を図りながら、島の活性化に向けた組織作りを検討したいと思います。2の(1)と4ですが、東廻り遊歩道の一部が崩落しているのは承知していますが、遊歩道の修復は困難であり、また、遊歩道の一部をルート変更するにしても地権者の同意が必要なため、継続的な協議が必要です。4です。また、灯台周辺の展望の妨げになる雑木の伐採についても、地権者の同意が必要なため、継続的な協議が必要です。8ですが、島内での体験型観光資源の一つとして活用できないか、各関係機関と協議、検討してまいります。5番です。平野氏宅跡地は標高が11.5mあり、緊急避難場所に指定をしている箇所です。修復の要望が出ており対応が必要と考えていますが、近年の全町津波避難訓練でも、大半の方が近くの観栄寺裏山に避難をしており、当箇所への避難者数は1名と把握しています。緊急避難場所を指定してから年数も経過しているので、改めて指定先の必要性も含め自主防災組織と協議の上、必要であることが再度確認できれば修復を検討します。旧出羽小学校階段手摺の一部取り付けに関しても、自主防災組織と必要性を確認の上、施工が可能であれば「とくしまゼロ作戦」推進事業を活用して進めて参りたいと考えています。次に、6です。過疎化や高齢化による人員不足により、出役など、これまでの島民の方の協力が得られなくなっていると聞いています。離島であることから、日常的な巡回や除草など、いきとどかない所がありますが、町道や公衆便所等の町管理のところにつきましては、牟岐町で維持管理を行います。周辺の町管理以外のところにつきましては、これまでのように作業が難しくなっている状況も十分理解していますが、基本的には、今までのように島民の方々に管理していただきたいと考えています。今後の課題としては、外部委託等の検討をしていきたいと考えています。次に、「観光の拠点として価値はある」とあるように、島の方々の今後は観光地として生き抜く覚悟であるとの思いが伝わる文言が示され、町としても意をくみ取り整備を早急に進めるべきではないかと考

えるが如何かにつきましてですが、牟岐町においては、観光施設が充実していないため、施設を訪れる観光客は少なくそれを増やしていくためには、ハード面・ソフト面の整備を含めた費用と年数が必要となります。そのうえで、牟岐町の特長として、山・川・海・島などの魅力ある資源を活用した体験型観光に取り組んでいます。出羽島においては、島民経営の民宿・民泊があり、民間団体の協力により波止の家、島の家などを活用した出羽島ガイドウォーク、寒天づくり体験、島そうめんなど出羽島ならではの魅力を感じていただけるように努めてまいります。以上です。よろしく申し上げます。

横尾議員 将来的、最後に質問しました、協議や組織づくりの予定は決まっているのであればお示しくださいということで通告していますが、その件については、どうなって、検討したいということが町長からも答弁ありましたが、具体的なスケジュールというのは、まだ考えていないのでしょうか。再問をお聞きします。

一山議長 枳富教育次長。

(枳富教育次長 登壇)

枳富教育次長 横尾議員の質疑に答弁したいと思います。今、コロナ禍でなかなか集まってくるの会合というのは、なかなか難しい状況でしたが、企画政策課、産業課、教育委員会、各々で個別の会合は開いている状況でした。これからは、横尾議員ご指摘のとおり、横のつながり、各課と連携を取りながら、出羽島を考える会というのがありますので、そこをベースにして、今後、組織づくりを進めていきたいと思っています。以上です。

一山議長 横尾議員。

横尾議員 やっていききたいということだけで、具体的に何月何日に第1回目をするとか、今既に出羽島を考える会というのが存在していますが、先ほどの町長の答弁にありましたけど、実際には、もっと波止の家とか、波止の家は島の人たちで管理運営をされていますが、ただ、町施設の3施設がまだ有効的な活用法が見いだせていないということなので、これもいつのことになるかわからないという状態です。ただ、それを持って、看板の整備等も、これができてからという話もありましたが、看板にしても、発着場に下りたときに、目の前の鋼板にペンキを塗った看板がありますけど、剥げてきて、いかに

も印象が悪い、いっそのこと覆ってしまって、簡単な観光マップをコピー用紙ぐらいで作って、大生丸にのせておくというふうなことも、すぐに考えつくことがあります。そういったことで印象を良くするような形にしてほしいなと思うし、そういったことも、結局、話し合う協議を皆さんと協議するというので、いろんなアイデアが出てくるように思いますので、早急にスケジュールを立てて、横の連携を持って、それこそ町長からトップダウンで命令をしていただいて、協議をすることは予算がかかりません。ということなので、どんどんアイデアを募って、できることから手を付けていただきたいと思います。あと新型コロナウイルスが、この5月より5類となり、今後、イベント等が再開されることが予想されます。インバウンド需要に向けた対策が必要となります。2025年、大阪関西万博に向けて徳島県は流れをつくろうと対策していますが、本町はどうでしょうか。先ほど広域連携をしているということでしたが、牟岐町は素通りの可能性も大いにあります。滞在型観光という形をもっとプログラムを作るべきではないかと思います。美波町は23番札所の薬王寺や道の駅での集客があり、ピンポイントで現地で開催していますし、海陽町ではDMVを売り出し各地より集客ができ賑わっています。牟岐町としては、重伝建では、日本で唯一の漁村集落の島である出羽島を売り出すべきではありませんか。先日の島での意見交換会では、現在、島の住民は実質44人だそうです。島民のある方は、「もう20年も生きとらんわ」と嘆いていました。そして重伝建として保存していくことに同意をしている物件は、まだ50棟以上あります。年間2棟ベースの修繕では、あと25年以上かかる計算になります。25年後に重伝建の整備が完了しても、島には何人が残っているのでしょうか。すごく憂えています。出羽島アート展で島の魅力は証明されており、観光客が増えれば島内に産業が生まれます。土産物店や食堂が再生復活され、人口も増えるでしょう。早急な整備を再度お願いし、質問を終わります。